

授業科目名	必修・選択別	単位数	対象学年	学期	曜・限	担当教員
症候学	必修	1	4	1		医学教育センター・山本・秋好 各臨床講座 教員

【科目名の英文】 Symptomatology

【授業の概要】

主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概要を各分野統合して学ぶことにより、医師として必須となる診療の基本を修得する。

【具体的な到達目標】

発熱、全身倦怠感、食思（欲）不振、体重減少・増加、ショック、意識障害・失神、けいれん、めまい、浮腫、皮疹・粘膜疹、咳・痰・血痰、呼吸困難、胸痛、動悸、胸水、嚥下困難・障害、腹痛、悪心・嘔吐、吐血・下血、便秘・下痢、黄疸、出血傾向、リンパ節腫脹、尿量・排尿の異常、血尿・蛋白尿、月経異常、不安・抑うつ、頭痛、運動麻痺・筋力低下、腰背部痛、関節痛・関節腫脹、聴力障害・難聴・耳鳴り、視力障害の33症候について：

- ① その症候の原因と病態生理を説明できる。
- ② その症候をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
- ③ その症候がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。

【授業の内容】

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	症候学①	全身倦怠感	総合診療・吉岩	講義*
2	症候学②	運動麻痺・筋力低下	神経内科・木村	講義
3	症候学③	体重減少・体重増加	内分泌糖尿病内科・正木	講義
4	症候学④	意識障害・失神	神経内科・増田	講義
5	症候学⑤	吐血・下血	消化器内科・福田	講義
6	症候学⑥	関節痛・関節腫脹	整形外科・糸永	講義*
7	症候学⑦	めまい	総合診療・吉村	講義*
8	症候学⑧	高次機能・感覚	神経内科・軸丸	講義
9	症候学⑨	皮疹・粘膜疹	皮膚科・後藤	講義
10	症候学⑩	呼吸困難・喘鳴	呼吸器内科・小宮	講義
11	症候学⑪	腰背部痛	整形外科・宮崎	講義
12	症候学⑫	発熱	呼吸器内科・小宮	講義
13	症候学⑬	腹痛	消化器内科・遠藤	講義
14	症候学⑭	出血傾向	腫瘍・血液内科・河野	講義*
15	症候学⑮	けいれん	小児科・前田、平原	講義*
16	症候学⑯	黄疸	消化器外科・増田	講義*
17	症候学⑰	動悸・心悸亢進	循環器内科・高橋	講義*
18	症候学⑱	聴力障害・難聴・耳鳴り	耳鼻咽喉科・門脇	講義
19	症候学⑲	月経異常	産婦人科・河野	講義
20	症候学⑳	リンパ節腫脹	腫瘍・血液内科・高野	講義*
21	症候学㉑	排尿障害	泌尿器科・澁谷	講義*
22	症候学㉒	蛋白尿・血尿	腎臓内科・工藤	講義*
23	症候学㉓	睡眠障害・不安・抑鬱	精神科・平川	講義*
24	症候学㉔	嚥下困難・嚥下障害	耳鼻咽喉科・立山	講義*
25	症候学㉕	視力障害	眼科・木許	講義

26	症候学②⑥	ショック	救急医学・安部	講義*
27	症候学②⑦	浮腫	腎臓内科・福田	講義
28	症候学②⑧	食欲不振・悪心・嘔吐	消化器内科・兒玉	講義*
29	症候学②⑨	胸水	総合診療・宮崎	講義*
30	症候学③⑩	頭痛	総合診療・塩田	講義*
31	症候学③⑪	咳・痰・血痰	呼吸器内科・大森	講義
32	症候学③⑫	便秘・下痢	消化器内科・岡本	講義*
33	症候学③⑬	胸痛	循環器内科・油布	講義*

<p>【アクティブラーニングの内容】</p> <p>症例ベースの臨床推論をグループで事前学習する。それをスライドで提出し、講義内で随時発表を行う。</p>	<p>【その他の工夫】</p>
---	-----------------

<p>【時間外学修の内容と時間の目安】</p> <p>*がついている18個の授業において、Moodle上に掲載された事例（医療面接）から事前に臨床推論を行う（60分）。</p> <p>◎がついている5個の授業は、講義後、症候学提出用シート（レポート）を完成させ、期限内にMoodleに提出する（60分）。</p>
--

<p>【教科書】</p> <p>内科診断学第3版 奈良信雄 福井次矢（医学書院）2016年</p>

<p>【参考書】</p> <p>総合診療力を磨く40の症候・症例カンファレンス 加計正文ほか（南江堂）2014年</p>
--

<p>【成績評価方法及び評価の割合】</p> <p>出席とレポート合わせて40%、試験60%で評価する。</p> <p>期限内に5個のレポートが提出されなければ不合格とする。</p>

<p>【注意事項】</p> <p>授業の方法及びレポートの提出期限等の詳細については初日のオリエンテーションで周知する。</p> <p>学務課からDeepメールで連絡があるので、必ず確認すること。</p> <p>Moodleも日々更新されるので、毎日チェックすること。</p> <p>オンライン講義になった場合には、Zoomのブレイクアウトセッションを用いたグループディスカッションを行うので、カメラ・マイク機能が必要となる。持っていない場合は学務課から貸し出すので事前に申し出ること。</p> <p>講義内容に関する質問は担当教官へ直接メールして下さい。</p> <p>症候学コース全般に関することや、試験に関することは医学教育センターまたは学務課へ問い合わせして下さい。</p>

<p>【備考】</p>												
<table border="1"> <tr> <td>教員の実務経験の有無</td> <td>○</td> <td>医師</td> </tr> <tr> <td>教員以外で指導に関わる実務経験の有無</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実務経験をいかした教育内容</td> <td colspan="2">33症候について、それぞれの担当診療科の医師が、実務経験をもとに講義を行う。</td> </tr> <tr> <td>授業形式</td> <td colspan="2">対面</td> </tr> </table>	教員の実務経験の有無	○	医師	教員以外で指導に関わる実務経験の有無	×		実務経験をいかした教育内容	33症候について、それぞれの担当診療科の医師が、実務経験をもとに講義を行う。		授業形式	対面	
教員の実務経験の有無	○	医師										
教員以外で指導に関わる実務経験の有無	×											
実務経験をいかした教育内容	33症候について、それぞれの担当診療科の医師が、実務経験をもとに講義を行う。											
授業形式	対面											